

日本脳炎予防接種について

対象となる病気について

日本脳炎ウイルスの感染で起こります。ヒトから直接ではなくブタなどの体内で増えたウイルスが蚊によって媒介され感染します。7～10日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。ヒトからヒトへの感染はありません。

流行は西日本地域が中心ですが、ウイルスは北海道などの一部を除く日本全体に分布しています。飼育されているブタにおける日本脳炎の流行は毎年6月から10月まで続きますが、この間に、地域によっては、約80%以上のブタが感染しています。以前は小児、学童に発生していましたが、予防接種の普及などで減少し、最近では予防接種を受けていない高齢者を中心に患者が発生しています。

感染者のうち100～1000人に1人が脳炎を発症します。脳炎のほか髄膜炎や夏かぜ様の症状で終わる人もいます。脳炎にかかった時の死亡率は約20%～40%ですが、神経の後遺症を残す人が多くいます。

接種の方法

1期

対象者……6ヶ月～90ヶ月(7歳半)未満の者

標準的な接種期間……

（1期初回…3歳～4歳未満で、6日以上、標準的には28日までの間隔をおいて2回

1期追加…4歳～5歳未満になるまでの間で、1期初回接種終了後6日以上、標準的にはおおむね1年*の間隔をおいて1回

2期

対象者……9歳～13歳未満に1回

※「おおむね1年」とは、「11～13ヶ月」と考えてください。